
厄除けブレスレット営業の現場

上村華月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

厄除けブレスレット営業の現場

【Nコード】

N7886X

【作者名】

上村華月

【あらすじ】

宝石デザイナーを目指す敦子が就いたのは、同じ宝石業界でも厄除け系の宝石ブランドの営業担当。そこで感じた現場の恐ろしさとは……。あくまでフィクションです。

私は敦子。今年24歳。専門学校ではジュエリーのデザインを学んだ。

卒業後は宝石関係の仕事を探したが、この不景気には勝てない。基本的にどこも新卒の採用を行ってはいなかった。

途方に暮れて行き着いたのが、今の仕事。雑誌にあった厄除けブレスレットの会社だ。ちよつと胡散臭かったが、家の掟により、卒業後は実家を離れなければならず、生きていくための選択を行った。当面アルバイトで生計を立てることも考えたが、宝石関係の仕事に就く夢は捨てられず、とりあえず同業界に身をおきチャンスを待つことにした。

デザイン部門を希望したが、まずは現場からということで営業の担当をしている。ただ営業といっても宝石を直接販売するわけではなく、雑誌を見て宝石を買ってくれた人にある種のアプローチをすることで、販売の拡大に繋げる業務だ。

そういうわけで今日はブレスレット買ってくれた48歳主婦宅を訪問した。

「すみません、ブレスレット会社の者ですが・・・」

「突然の訪問すみません、実は先日お買い上げいただきましたブレスレットなんですが、その後効果はいかがですか？」

主婦は突然の訪問とぶしつけな質問に顔がこわばっている。

「何ですか急に？効果はまだ買ったばかりだから出てないわよ！」

「実は効果なんてあるわけないんです・・・」

「このプレスレットはインチキですから。材料だつてほら、安っぽく見えませんか？これは私が作ったんです。材料代2000円でした。会社も小さいから、私営業なんですけど、週1回内勤のときに作ってるんです。ただしちゃんとインドで修行をされた祈禱師の方が出荷前にお払いをしているのはホントです。」

「えっ、どういうこと？なんでそんなことあなたは私に言うわけ？」主婦の顔は更にこわばってきている。どう考えても不信な展開だ。

「私、会社辞めるんです。こんな仕事に嫌気がさして。だからこの際今まで買ってくれた人に謝りたくて一件残らず訪問しているんです。」

「あらーそうなの。大変なのね。」

主婦は理解を示すも、インチキ商品を買ってしまった自分に腹が立っているようだ。

「でも私もう買っちゃったし。」

「大丈夫です。買っていないことに出来ますので、もし良ければこの場で返金させていただきます。」

「買っていないことにするってそんなこと出来るわけじゃない。」

「会社が小さいので、私が資料を書き換えればそれで出来るんです。そこは信じていただければ……。」

「そんな話信用できるわけじゃないじゃない。だって、もうクリーニングオフ期間終わってるのよ。」

私はさつと封筒に入れた購入代金10万円を主婦に差し出した。

「これで信じていただけますか？この会社は小さいので私が経理の仕事も兼務してますからなんとでも出来るんです。営業の販売台帳も出納帳も私が管理してますから、あなたがクリーニングオフしたということに出来ますので。」

「あら、そつなの？」

主婦は納得しブレスレットを返却し、10万円を受け取った。
「本当にご迷惑をお掛けいたしました。私は……。」と自分が宝
石会社に入社したかった夢などを話し、いつかお店を開いたら是非
来てくださいという意味合いで連絡先を置いて会社に戻った。

2週間後、その主婦から電話で連絡が入った。

「こないだはありがとうね。お金返してもらったりさ、けどそのブ
レスレットもう一回欲しいんだけど。」

「どうされたんですか急に？ブレスレットの効果はなかったってお
っしゃってましたよね？」

「えーっとね、言いづらいんだけどブレスレットを手放してからい
いことないのよ。」

「それってブレスレットのせいなんでしょうか？」

「絶対そうよ。そうに決まってるわ。だって今までこんなについて
ないことなんてなかったから。持っている株価が下がったり、買い
物したレジ袋はスーパーに置き忘れるし……。」

「そうですか、それは大変でしたね……。」

すると主婦はこう切り出した。

「あなた言ってたでしょ。ブレスレットはニセモノだけとお払いは
ちゃんとしてるって。そのお払いの力はあるのよ絶対。だからブレ
スレット返して欲しいの。」

「ニセモノだって分かっているだけに返しづらい私の気持ちも察して
いただけると……。」

「何もつたいぶってんのよ。いいから返しなさいよ私のブレスレッ
ト、ほらっ。」

主婦は10万円を敦子に差し出した。

「……それでしたら直接祈祷師の方にお払いをお願いしてみまし

ようか？ブレスレットはやっぱりどうにもお渡ししづらいんです。」

後日、主婦は雑居ビルの1室で祈祷師からお払いを受け、30万円を支払って出て行った。

「ふう、やれやれ。疲れたー。」

敦子は祈祷師の被り物を取り脱ぐと、別室でブレスレット製作の業務についた。

「この会社は小さいから何から何まで大変だわ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7886x/>

厄除けプレスレット営業の現場

2011年10月21日16時14分発行